

# 筑波大学名誉教授の会会報

第3号

1998年1月発行  
〈題字：中村仲夫〉

## 目次

第12回筑波大学名誉教授の会総会報告 .....	花田 毅一 .....	2
大学の近況「厚生補導が抱えている課題」 .....	森 昭三 .....	3
「学園祭を終えて」 .....	戒能 洋一 .....	4
「当世筑大スポーツ事情」 .....	森岡 理右 .....	4
会員だより「つくば国際大学」 .....	佐藤 泰正 .....	5
「常磐大学国際学部に集まって」 .....	加藤 栄一 .....	5
「ひらかれた大学」 .....	西澤 龍生 .....	6
「近況報告」 .....	井上 辰雄 .....	6



平成9年9月から入居の留学生宿舎（38号棟）

# 第12回筑波大学名誉教授の会総会報告

副会長 花田 毅一

日時 平成9年11月22日(土)  
会場 茗溪会館. 出席 松木会長ほか56名  
総会 10:00~10:40

## I. 会務報告

### 1. 庶務

- 1) 新規入会者数:平成9年度新名誉教授22名(24名中)及び未加入名誉教授1名,計23名の入会があった。
- 2) 慶弔:平成9年4月に江原有信,坂柳義巳,池永勝雄,平井淳の4会員が叙勲された。平成8年12月,会員永井博氏が日本学士院会員に選任された。平成9年3月,阿南功一会員が逝去された。

### 2. 会計(平成9年4月1日~11月1日)

#### 1) 収入

前年度繰越金	826,608円
貯金利子	1,414円
会費	228,460円
合計	1,056,482円

#### 2) 支出

会議費(2回)	59,956円
電報料(4件)	24,316円
供花等料(1件)	16,380円
会報印刷費	63,000円
会報発送費	44,460円
小計	208,112円
残額	848,370円
合計	1,056,482円

### 3) 有価証券保有状況(平成8年度末)

定額貯金 1,811,000円

### 3. 会報刊行

第2号を本年6月に刊行した。第3号は一部原稿の入稿遅れのため,刊行が遅れた。速やかに刊行すべく努力している。

以上3件の会務報告が承認された。

## II. 幹事の選出法の改正並びに次年度役員について,次の通り決定した。

1. 従来は学群毎の定数による21名の幹事によって運営してきたが,幹事を出していない学系があり,種々の連絡や依頼等に支障を生じていた。このため,選出母体を学系等(学系及び学校教育部)とし,体育科学系から3名,芸術学系から2名,その他の学系等からは1名,合計30名の幹事を委嘱することにした。
2. 各学系等からの推薦に基づき,新年度の幹事とその他の役員が承認された。なお,当日までに推薦がなかった学系等の5名については,後日推薦された候補者を幹事とすること,来年3月に予定されている役員会で,学群ごとの半舷上陸方式に基づいて新年度の任期を定めることとした。今回任期が切れる菅野副会長は副会長に留任することになった。

## III. 講演会 10:50~12:20

本会会員,日本学士院会員永井博氏による,演題「科学と哲学の合間」の講演があった。

## IV. 懇親会 講演会に引き続き開催された。14時閉会。

以上

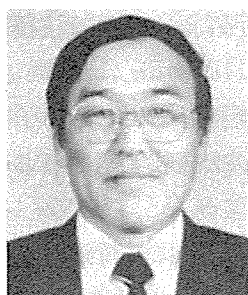
## 「筑波大学名誉教授の会」役員名簿

区 分	新 役 員	備 考	区 分	新 役 員	備 考
哲学・思想学系	(工藤喜作)		物理工学系	田崎明	
歴史・人類学系	大藪正哉		物質工学系	南日康夫	
文芸・言語学系	(森野宗明)		構造工学系	本間琢也	
現代語・現代文化学系	島岡丘		電子・情報工学系	( )	
社会科学系	長尾昭哉		体育科学系	寄金義紀	
数学系	中川良祐		体育科学系	藤田紀盛	
物理学系	(三好昭一)		体育科学系	大木昭一郎	
化学系	池田長生		芸術学系	杉田豊	
地球科学系	渡辺景隆		芸術学系	眞保亨	
教育学系	高倉翔		基礎医学系	田村昇	
心理学系	大野清志		臨床医学系	浅井克晏	
心身障害学系	佐藤泰正		社会医学系	山口誠哉	
生物科学系	鈴木恕		学校教育部	(小林学)	
農林学系	佐藤昭二		会長	松木重雄	
農林工学系	青山経雄		副会長	菅野三郎	
応用生物化学系	安井恒男		副会長	花田毅一	
社会工学系	渡邊浩		会報担当	鈴木博雄	

備考：( ) は、総会時に未定であった学系等

## 厚生補導が抱えている課題

厚生補導担当副学長 森 昭三



時代の推移に伴って、厚生補導が抱える課題も変化してきています。この機会に、特徴的なことを二・三紹介させていただきます。

数年前から、学内で駐車規制を始めました。大学から2km以内の学生には、特別の事情がない限り駐車許可証を発行しないことにしています。その結果、道路等に不法駐車することが激減しましたが、一方で違反者の取締りが大変になりました。また、学生相談（不応や修学指導等）の件数、特に大学院生の相談の増加が著しく、この対応と対策に相談室の先生方が悩んでいます。

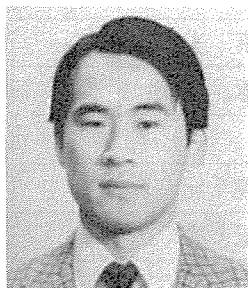
「就職協定の廃止」に伴って、学生の就職活動が早期化・長期化の傾向にあり、授業や卒論指導に支障があると指摘する教官も少なくありません。どう指導するかですが、就職状況は教職を除けば従来どおり良好です。

筑波大生の下宿先での「ごみ出し」が常識を逸しているとの苦情が多く、学生宿舎時代に自律的な市民生活の体験をさせる必要があるのではないかとこの声が出始めています。

暗い話題になってしまいましたが、「厚生補導」という名称を時代のニーズに合ったものに変更しようと検討中です。もちろん、名称変更ばかりでなく、魅力ある学生生活づくりに鋭意努力していきたいと考えております。ご支援ください。

## 学園祭を終えて

平成9年度学園祭委員会副委員長 戒能 洋一（農林学系）



3日間の学園祭が終わった。期間中、学内の模擬店を見て歩きながら、もう20年程前のことであるが、私が属していたクラブの恒例でお汁粉屋を開店し、その準備から後始末までどっぷりと学園祭の中で過ごした学生時代のひとこまを思い出した。今回は、学園祭副委員長という大役での参加である。西岡学園祭委員長と共に企画の出そろった段階から学実委の学生諸君と何度かミーティングを行い、問題点を洗い出し内容の検討を重ねてきた。300を超える企画が集まり、祭りを盛り上げる役者が十分そろった反面、準備に関わる学実委や学生課の方々の苦労は大変なものであったろう。

天気がよかったせいもあり、三日間家族連れ、特に小さい子どもをよく見かけた。子どものための出し物もいくつか準備されており、本部企画の「そよかせ王国」や「ぺたんこラリー」などはいい内容であった。手話サークルの歌も子どもから大人まで楽しめるもので、部員のいきいきとした表情が秋のすがすがしい日にふさわしく印象的だった。

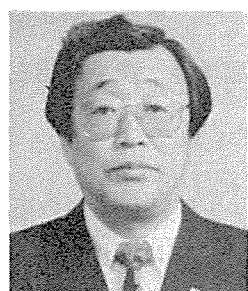
また、ごみに関しては、至るところに分別用ごみ箱が置かれてあり、そのためか通路に投げ捨てられたごみは少なかったように思われた。特に回収トレー専用のごみ箱があり、これは学園祭が終わってリサイクルされるのだろうと思うと行き届いたごみ管理に頭が下がる思いだ。ただ、各模擬店では、使い捨てのプラスチックのトレーを無造作に使っているような気がする。ごみ減量のために一工夫あってもいいのではないか。

私が、この学園祭で感じたのは、企画を出し活動する学生諸君のエネルギーとそれを支える学実委とそれを見守りバックアップする教職員の三者のたまものであるということ。今回の学園祭が、三日間天気に恵まれ、大した事故もけが人もなく無事終了し、大成功であったことを心からうれしく思う。

---

## 当世筑大スポーツ事情

体育センター長 森岡 理右



名誉教授諸賢台、益々ご活躍のことと推察申し上げます。筑波はいま中秋、月冴え、風澄み、紫峰は英姿も鮮明に、勉学に励む学生たちを見守ってくれます。

さて、当世の筑波大学スポーツ事情、個人競技種目に復活の萌しがみえ、団体競技種目はやや低迷気味、であります。

陸上競技の女子は日本学生選手権を8連覇、また日本選手権でも優勝者を出し、男子も跳躍陣を中心に頑張ってます。水泳やカヌーでも女子はオリンピック経験者が数名おり、カエルならぬカッパの勢いを見せつけてくれます。

そのほか、男子では体操、剣道、柔道、弓道の伝統競技に加え、卓球、バドミントン、自転車にも新鋭が台頭。時代の推移を知らせます。

一方、士気あがらぬのは団体種目。男子ハンドボールの爆発のほかは、サッカー、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、野球等々、いま一歩二歩の進み具合。

推薦入試実施時期の遅さ、他大学と違って入学保証を絶対にできない本学の立場、教員志望者激減（希望してもなれない）で一般大学と変わらない入学希望者……などを、競技不振の原因とする向きがあれば、反面、指導者陣が長年変わらない（地域性のゆえに交代が困難）のもそれに拍車、と見る向きもある。

優秀な高校選手が欲しい……のは、当世、筑波大スポーツをあずかる者たちの第一の声、と紹介して、諸先輩のご助言をお待ちします。

# つくば国際大学

つくば国際大学副学長 佐藤 泰正 (元副学長・元心身障害学系)



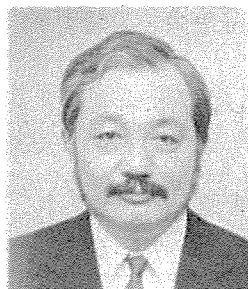
つくば国際大学は平成6年4月に開学し、今年4年目を迎えました。来年の3月には第一回の卒業生を送り出すこととなります。所在地は土浦市ですが、将来、土浦市、牛久市を含めた人口100万の都市『つくば』を想定し、つくば国際大学という名前をつけたのです。21世紀が必要とする人材養成を目指し、産業社会学部のもとに産業情報学科と社会福祉学科の2つの学科があります。おかげさまで、現在では、県内の高校生から入学したい大学として評価されるようになりました。

本学では筑波大学の名誉教授やOBたちが元気で活躍しています。学部長は三澤義一(心身障害学系)先生が、教学部長に中島光廣(体育学系)先生、図書館長に別府淳夫(哲学思想学系)先生、篠原昭雄(教育学系)先生が産業情報学科長をされています。柿沢寛(化学学系)、増田文男(学校教育部)の両先生も産業情報学科教授として教鞭をとっておられます。そのほか、両学科には多くの東京教育大学・筑波大学の同窓生がおり、研究教育活動に励んでいます。

\*\*\*\*\*

## 常磐大学国際学部が集まって

加藤 栄一 (元社会工学系, 平成9年3月退職)



水戸にあります私立大学「常磐(ときわ)大学」は、現在発展中の、財政的にも健全な大学で、平成8年4月に「国際学部」を開設しました。

その学部到现在すでに五人の筑波大学名誉教授が教授として活躍しています。

学部長を務める司馬正次教授をはじめ、鈴木博雄教授、大友賢二教授、河野博忠教授及び私です。

同僚には日本学士院賞の岡田英弘教授や「高山の定理」で名高い経済学者の高山崇教授、元大使の藪忠綱・加藤淳平両教授、筑波研究学園都市在住では、有名な作家の藤原英司教授と加藤清昭教授など多士済々です。

環境は、偕楽園に近い風致地区の中にあって抜群で、75年前の操業以来の「しつけ」の行き届いた学生及び学生OB(OG)の多い職員のかもし出す和やかさと能率の良さは、マンモス国立大学に居た身としては、思いがけない快いものです。

私が見るところでは創業者一族が珍しいほど優秀かつ人格的にすぐれた人々であることが大きいと思います。現理事長は創業者の令息で元文部事務次官、現学長は創業者の令孫で筑波大学講師も務めた常磐大学教授、事務局長が学長の母堂で非常にしっかりした方です。女子職員がみな賢く親切で明るく本当に頼もしいのは、この事務局長のお仕込みであろうと常々感心しています。

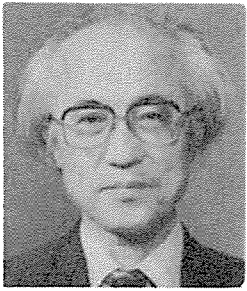
ここに職を得たことを感謝し、学生たちを少しでも良く育てようと努力している毎日です。県北中心の出身から、学生の多くは純朴で素直で、教えがいがあります。

水戸を中心とする企業もこの学生に期待してくれているらしく、先日、三の丸ホテルで開いた「常磐フォーラム」には多くの企業の人事担当者がかけてくれました。恐らく平成12年春に卒業する一期生の就職も大丈夫でしょう。

5人分の現境涯をご報告いたしました。

# ひらかれた大学

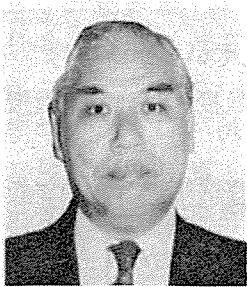
西澤 龍生<sup>りゅうせい</sup> (元歴史・人類学系)



大学には二つの種類がある。一つは古いヨーロッパの町々にあるそれ。おや、この建物もか、といった感じで道路に面した扉を若者だけでなく、買物籠片手の主婦までもがくぐってゆく。人気教授の講義にはこんなおばさま方が前列を占めていたりするのだ。市民に「ひらかれた」大学にはちがいない。日本ならさしづめ神田あたりにそうした「カルチェ・ラタン」の温床も育まれるところであつたらうか。そして今ひとつは、大自然の懷に広大なキャンパスを擁するアメリカ風のそれ。陽光眩ゆき緑の樂園だが、それとして「閉じられた」大学といった趣もなくはあるまい。1975年から筑波に末席を汚して身にあまる光栄に戴きつつも、ただし国際A級とやらの掛声の勇ましきには些か辟易させられてきたのも事実である。或る宴会で福田学長の「ひらかれた大学」に関する獅子吼を拝聴したあと、ジョッキ片手の学長先生につかつかと思ひ出で、こううかがつたものである。「先生、ひらかれた大学というのは神田あたりにあるそれで、筑波はこのひろいキャンパスで閉じられているのではないのでしょうか。」睨みつけられたのは言うまでもないが、本当にまだ若かつた。情報時代、大学の立地が第一義でなくなりつつあることは、私とて今や承知している。筑波が真のひらかれた大学として発展することを願う思いは切である。

## 近況報告

井上 辰雄 (元歴史・人類学系)



筑波大学定年から、既に6年近くになる。

30数年の国立大学の積年の疲れが出たせいか、しばらくは、ノンビリした日を迎えたいと心から願っていたが、それも束の間、儚い夢で終ってしまったようである。

千葉県下の新設大学に縁あつて就職し、初めは比較的、閑職の図書館長に任せられ、午後からの授業を受けもつことで許していただいていた。だが、四年生の大学が一応完了すると、直ちに修士の大学院を新設し、更にその上に博士課程を置くという有様で、否応なしに駆い出される結果になってしまった。

また、定年と同時に、前々からの約束に従つて、土浦市立博物館の館長を引き受けることになったが、館長の特権で、筑波大の卒業生を数人、学芸員として採用していただいたりした。これは一週間に一回の出勤で、日本史専攻の私には、嬉しい職場で、時には気分転換の場所ともなった。しかしその延長と云つてよいかどうかは判らないが、最近では、茨城県の文化財委員にされ、県下の文化財の調査や会議にも出されることになった。

それだけで収まっていればよかつたが、恩師や先輩からのたつての要請を断り切れず、文部省関係の学位授与機構の歴史の委員や教科書選定の委員を務めることになってしまった。特に、高校の日本史の教科書問題は、社会の話題を集めるだけに、なかなか難しいので、やや閉口している状態である。

ただ、唯一の救いは、長年にわたる古本屋と骨董屋との付き合いである。趣味が高じてとは、真に都合のよい口実に過ぎないが、今では茶道の裏千家の東京第二東の支部長に祭り上げられてしまい、しばしばお茶会に引張り出されることになってしまった。

先輩にその事をボヤイたら、「お呼びがくるうちが花だぞ」と、慰めだか、脅しだか判らない言葉が早速帰ってきた。

## あ　と　が　き

10月発行予定の会報が大幅に遅れまして済みませんでした。編集の途中から、総会の案内につけて送る時間的余裕がなくなり、総会の様子を伝えることも必要という意見も出て、総会後に発行を延ばすことになりました。会報のために、ご多忙中のところ急いで原稿を戴きました諸先生には申し訳ない結果になりましたが、ご了承下さい。次回は4月末を予定しておりますので、会員諸氏のご投稿を期待しております。

編集担当 鈴木 博雄

### 表紙写真説明

9月から入居の留学生宿舎（38号棟）は、エアコン、ユニットシャワー、トイレ、ミニキッチン等の完備した快適な単身用個室